

創造的な文化芸術活動で
基町住宅地区の魅力づくり・活性化を目指す

基町プロジェクト

～ 施策展開を図っていくための
方向性と基本コンセプト～

平成 27 年 3 月

基町プロジェクト（広島市立大学・広島市中区役所）



目次

1. はじめに

(1) 基町プロジェクトについて	01
(2) 基町住宅地区活性化計画と基本データ	02

2. 基町プロジェクト

(1) 基町住宅地区の魅力を引き出す3つの場	03
(2) 短期、中期、長期計画の目標	04
(3) 計画一覧表	05
(4) 《学びの場》について	06
(5) 《創造の場》について	09
(6) 《交流の場》について	11
(7) 情報発信について	13
情報・発行	14

本書は、公営住宅にかかる規制に関して、広島市が国など関係機関と折衝して条件が整うことを待つ必要があるものや、財源が確保できないと実施できないものなどを含め、創造的な文化芸術活動や地域交流を通じた基町住宅地区の活性化を図っていくための方向性や基本コンセプトを取りまとめたものである。

1. はじめに

(1) 基町プロジェクトについて

基町プロジェクトの目的

「基町プロジェクト」は、平成 25 年 7 月に広島市が地元住民と連携しながら策定した「基町住宅地区活性化計画」に掲げている「基町アートロード、アートによる魅力づくり」の実現を目指す取組である。若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じて、まちの魅力づくりや、基町住宅地区の活性化を目的とする。

実施にあたり広島市立大学と中区役所が連携し、平成 26

年度から試験的な活動を開始し、「基町プロジェクト～施策展開を図っていくための方向性と基本コンセプト～」(以下、「本書」という。)を策定した。平成 27 年度より本書に基づいて長期的な目標を見据えたプロジェクト活動に取り組む。また、本プロジェクトは、広島市が平成 27 年に被爆 70 周年を迎えるにあたり、被爆 100 周年を見据えて実施する「まちづくり先導事業」の 1 つに選定されている。

基町住宅地区について

基町プロジェクトの主な対象地域である基町住宅地区は、広島市の中心部に位置し、公営住宅が立ち並ぶエリアである。ジャバラ型のユニークな高層アパートを中心に約 3000 世帯（平成 27 年 3 月現在）が暮らしており、地区内にはショッピングセンター等が併設されている。また地区周辺には中央公園、広島城、原爆ドーム、平和記念公園、旧市民球場跡地など人々が賑わう場所が多く点在して

いる。戦前戦中は、軍用地の集積地であったが、原爆投下により一帯は焼け野原となった。戦後に建てられた不良住宅等の建て替えを目的とし、昭和 40 年代前半より、高層アパート等が建設され、現在の基町住宅地区が出来上がる。当初はにぎわいあふれる地域であったが、近年では、建物老朽化、住民の少子高齢化、商店街の衰退などによる地区の活力低下が問題視されている。

基町プロジェクト活動拠点「M98」

基町プロジェクトの活動拠点として、基町住宅地区内にある商店街の空き店舗をリノベーションし平成 26 年 5 月に「M98」を開設した。「M98」には週 3 日程度、2 名のプロジェクトスタッフが出勤してお

り、地域交流や実務を行っている。活動拠点を設けることで、地域住民から地域の一員と認められ、地域の抱える問題や要望を理解し、把握することが可能となった。



上：基町住宅地区全体写真 下：M98 外観

(2) 基町住宅地区活性化計画と基本データ

基町住宅地区活性化計画 概要

基町住宅地区では、建物の老朽化のみならず、少子高齢化などに伴う地域コミュニティの活力低下や、空き店舗の増加に伴う商店街の衰退など多くの問題が顕在化している。これらを背景に、地域活性化を求める機運が高まっており、これらの問題に起因する種々の課題に対応し、この地区の活性化が図れるよう、早急に取組む必要がある。このため、当該住宅地区の現況調査等を実施し、そ

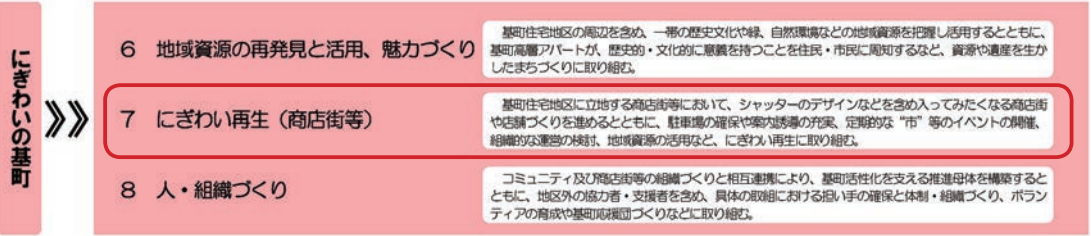
の結果等の分析を行ったうえで、地区住民、学識経験者、行政職員などで構成する基町住宅地区活性化検討会、コミュニティ及び商店街活性化検討部会において、住宅のみならず商業や福祉など幅広い観点から検討を行った。その結果を平成 25 年 7 月に、広島市が活性化計画として取りまとめ、これを基に地区住民等と協働して地区の活性化に取組むものである。

活性化計画における基町プロジェクトの位置づけ

基町住宅地区活性化計画では、「絆」というテーマのもとで基町住宅地区の将来像として「安心と笑顔の基町」「出会いと交流の基町」「にぎわいの基町」の3つが掲げられている。そのうち基町プロジェクトは「にぎわいの基町」の項目内にある「7 にぎわい再生（商店街等）」に位置づけられている。そのため基町プロジェクトでは、若者が主体となった創

造的な文化芸術活動や地域交流を通じ、商店街の活性化を軸に基町住宅地区のにぎわいの創出を目指す。しかしながら、約 3000 世帯が暮らし、高齢者の多い基町住宅地区のにぎわいを、商店街の活性化のみで実現することは困難である。そのため本書では商店街の活性化を軸にしながらも、より多角的な面からにぎわいの創出につながる取組を計画した。

基町住宅地区活性化計画（抜粋）



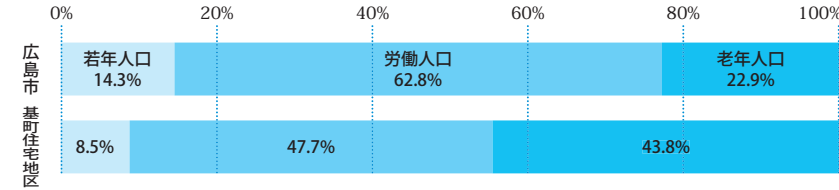
基町住宅地区 基本データ

● 人口・高齢化率・外国人比率 平成 26 年 12 月末現在（住民基本台帳登録による）

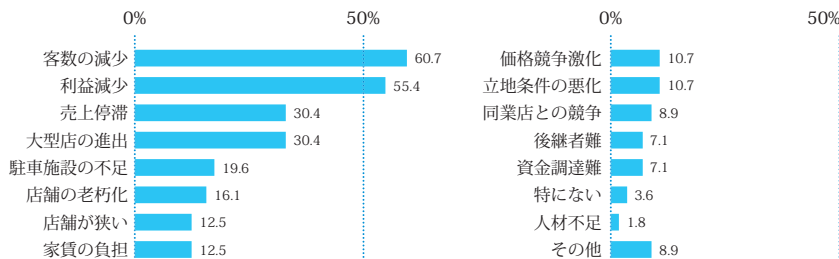
学 区	世 帯 数	総 人 口	若年人口 (0~14 歳)	労働人口 (15~64 歳)	老年人口 (65 歳以上)	外国人人口*
広 島 市	543,410	1,188,398	169,998 (14.3%)	746,375 (62.8%)	272,025 (22.9%)	15,902 (1.3%)
基町住宅地区 (県営含む)	2,810	4,502	381 (8.5%)	2,148 (47.7%)	1,973 (43.8%)	880 (19.5%)

* 外国人人口は総人口の内数

● 年齢 3 区分別人口比率 平成 26 年 12 月末現在（住民基本台帳登録による）



● 商店街が直面している経営上の問題（複数回答） 平成 24 年 9 月（市営店舗事業者アンケート）



2. 基町プロジェクト

(1) 基町住宅地区の魅力を引き出す 3 つの場

策定にあたって

本書を策定するにあたり、平成 26 年度の一年間をかけて地域の方との交流や意見交換、地域行事への参加、基町プロジェクト主催のイベントの開催などを行った。その中で気づいた基町住宅地区の持つ可能性や魅力と、広島市立大学の学部の特徴（芸術学部、国際学部、情報科学部）を考慮し、本書を策定した。

本書で目指すのは、基町住宅地区が単なる住宅地ではなく、広島市の掲げる「国際平和文化都市」の一役を担う場に生まれ変わることである。そうすることで外部から人々の流入が促進され、本プロジェクトの目標である、基町住宅地区のにぎわい再生につながると考える。その実現のため、「学びの場」「創造の場」「交流の場」の 3 つの場づくりに取り組む。

● 学びの場

基町住宅地区内には幼稚園、小学校が併設されており、すぐそばには基町高等学校がある。これらの学校と広島市立大学をはじめとする広島各大学が協働で若者の学びの機会を作る。また、基町プロジェクトの活動を通して地域住民が主体的にまちづくりに参画できる機会の提供や、専門家を招いてのレクチャーなどを開催し、地域の人材育成にも取り組む。

学びの場

● 創造の場

若いクリエイターの創造的な活動を支援する環境を提供し、その成果を地域に還元する。商店街の空き店舗を活用し、創作や、展示などが行えるスペースを設置する。それらを活用し国内、海外から若いクリエイターを呼び、短期滞在制作の機会を提供する。また、老朽化した建物のリノベーションデザインの請負などを通して、若いクリエイターの雇用の機会の創出も目指す。

創造の場

● 交流の場

基町住宅地区住民と地区外から訪れる人々の交流の機会を作り出す。基町住宅地区は戦後復興を考える上で極めて重要な場である。また、同地区には多くの外国籍の方が暮らしており、多様な文化が交差する地区でもある。これらの背景を活用し、特色ある交流の場を創出する。

交流の場

(2) 短期、中期、長期計画の目標

2045年までを短期、中期、長期に分ける

基町住宅地区の活性化を文化芸術活動や地域交流を通じて実現するためには、長い時間が必要となる。本書では広島市が被爆100周年を迎える2045年までに基町住宅地区が抱える諸々の問題が解決に向かい、新たな基町住宅地区像が完成するよう計画した。計画にあたり2045年までの期間を短期、中期、長期の3つに分けて目標を定めた。

各時期の重要な出来事との連動性

向こう30年を3つの時期に分けるにあたり、広島市や日本において人の動きが活発になると予想される重要な出来事を念頭に置いている。各時期の重要な出来事に合わせる形で基町プロジェクトの取組を行うことで、より大きな波及効果を狙う。右の表には波及効果を引き出す上でポイントとなる本プロジェクトの活動目標をまとめた。これらを踏まえた上で、次項以降の細かな計画を設定した。

* 地域再生計画

地域が行う地域再生のための自主的・自立的な取組を総合的かつ効果的に支援するため、地方公共団体が作成し、その認定を申請する地域再生計画について内閣総理大臣が認定。計画に基づく事業に対する特別措置（若年家族、子育て世帯等の入居促進など、住宅における目的外使用の弾力化）により再生を図る。



(3) 計画一覧表

短期（2015 年～ 2017 年） 広島市 被爆 70 周年（2015 年）		中期（2020 年まで） 東京オリンピック開催		長期（2045 年まで） 広島市 被爆 100 周年	
《 学 び の 場 》 若 者 の 連 携 ・ 交 流 地 域 の 人 材 育 成	大学・学校間の連携・交流（授業等での取組体制を構築） - 仮設カフェをつくる（市大×修道大学×地域）：空間から手作りする。 - ワークショップ（市大×基町小×地域）：アートやデザインに触れる機会創出。 - 基町マップ等制作（広島大×地域×市大）：地域資源・眺望の魅力を紹介。 - 基町高等学校との連携のあり方を検討。	大学・学校間の連携・交流（授業・実習での実施体制の整備） - 国内外他都市の大学との交流連携：（例）地域交流を通じて、地域課題に取り組むプロジェクトを実施。展示など外部にも開かれた成果発表を行う。 - 修学旅行生の呼び込み：（例）復興の歴史を伝える基町の紹介（平和記念公園とセットとして成立するプログラムの整備）。	◆ 若者が集い、学ぶ基町 - 広島各大学が連携し、様々な実践的学びの拠点を形成する。恒常的に若者が出入りすることで、にぎわいが醸成される。 - 広島戦後復興以降の営為を、体験的に伝える拠点整備。 - 基町住宅地区の諸課題に取り組むことを通じ、学生を主な対象とする教育学習を行い、多様な若者が多く集まり交流する拠点を形成。		
	地域の人材育成（プロジェクトに参加いただける方を増やす） - M トーク（地域住民や専門家などを交えたトークイベント）の実施。 - 意見交換会（地域住民とプロジェクトスタッフの意見交換会）の実施。 - 地域のイベントへの参加を通じた交流（スタッフや学生）。	地域の人材育成（プロジェクトに参加いただける方を増やす＝展開） - M トーク（地域住民や専門家などを交えたトークイベント）の実施。 - 意見交換会（地域住民とプロジェクトスタッフの意見交換会）の実施。 - 地域のイベントへの参加を通じた交流（スタッフや学生）。	◆ 若者が創造し、働く基町 - 都心部における、新しく創造的な文化発信拠点を形成し、広島市内外の各施設等と連携する。 - 創造的な文化芸術活動を支援する環境を整え、若者らが活動しやすい環境を整備する。 - 商店街などを活用し、若者が仕事（特に創造的な文化芸術活動）を行うことで、収入を得ることができる環境をつくる。		
	商店街の公共デザイン整備（まちを美しくするためのデザイン） - ショッピングセンター屋上緑地の整備。 - ショッピングセンター床タイルのデザイン。 - 公衆トイレの整備プロジェクト：来訪者（特に女性）が基町住宅地区に入りするため必要。 商店街に創造交流拠点の設置（若者が活動する空間） - 基町プロジェクトの展示会場として利用。 - M トークや意見交換会の会場として利用。 - 基町アパート入居者（地域再生計画による学生・若年世帯入居が開始された場合）による、作品制作・展示。	アーティスト・イン・レジデンス（クリエイターの滞在制作）の整備 - アーティスト・イン・レジデンスの実施：アーティストやクリエイター等が、基町住宅地区に滞在し作品を制作し、最後に作品展示を行う。クリエイターなどによる、ワークショップなど地域還元をセットに行う。 商店街に創造交流拠点の設置・活用 - 作品展の開催。 - 交流イベントの開催。	◆ 若者が住む・滞在する基町 - 学生・若年世帯にも魅力のあるアパートの運営。 - ホテルの運営：コルビュジエのユニテ・ダビタシオン（マルセイユ）の事例でアパートのホテル活用がある。		
《 創 造 の 場 》 若 い ク リ エ イ タ ー の 創 造 的 な 活 動 を 支 援 す る 環 境 を 構 築	作品展示（基町について幅広い人に知らせる／興味を持ってもらう） - 基町写真展（基町歴史トーク、ワークショップ）。 - 基町をテーマにしたシンボリックな作品制作。	来訪者の呼び込み（学びの場／創造の場から得られる成果を発信） - 復興の歴史を伝える基町の紹介。 - 若者を中心とする創造的文化芸術活動の発信。			
	ネット上での基町紹介 Google ストリートビューによって、アパート屋上から見える景色を写真で公開。	周辺環境の整備 外来駐車場の整備。			
《 交 流 の 場 》 地 域 資 源 の 再 発 見 と 活 用 に よ り 人 の 交 流 を 促 進					

(4) 《学びの場》について

短期（2015年～2017年）：広島市被爆70周年（2015年）

[自頁に続く](#)

大学・学校間の連携、交流

《学びの場》

地域の人材育成

仮設カフェをつくる（市大×修道大学×地域）



平成26年度より始まった、広島修道大学の「ひろしま未来協創プロジェクト」と「基町プロジェクト」が連携し、平成27年度の夏に仮設のカフェを作り基町住宅地区周辺で運営する。これは学生が主体と



なり実施するもので、互いの専門分野を活かしながら取組、自主性の高い学びと実践の機会を創出する。平成26年10月より取組を開始している。（*写真：イメージ）

ワークショップ（市大×基町小×地域）



基町小学校児童や地域住民がアートやデザインに親しむきっかけとして、ワークショップを開催する。広島市立大学芸術学部の教員や学生も参加することで、創造性の高いプログラムを実施し、小学生の創



造性を育てる。また地域住民が基町プロジェクトの取組に関わる第一段階となる。（*写真左右：平成26年度夏のワークショップの様子。小学生、地域住民、約120名が参加）

Mトークの実施



「Mトーク」とは地域住民や専門家などを交え基町について話すイベントの名称。1ヶ月に一回程度実施予定。地域住民が自身の住む基町についての知識を深め、まちづくりに主体的に関わる人材を育成する。（*写真：平成26年度のMトークの様子）

基町プロジェクト意見交換会の実施



「基町プロジェクト意見交換会」はプロジェクトスタッフ等と地域住民が本プロジェクトについて話し合う会。2ヶ月に一回程度実施予定。地域住民が本プロジェクトに対して意見や要望を伝え運営に関われる場を設ける。（*写真：平成26年度の意見交換会の様子）

地域のイベントへの参加を通じた交流



基町住宅地区で行われる地域のイベントへプロジェクトスタッフ等が参加することを通して地域住民との親睦を深め、スタッフの顔や本プロジェクトの取組を広める。（*写真：平成26年度の町民体育祭参加の様子）

(4) 《学びの場》について

短期（2015年～2017年）：広島市被爆70周年（2015年）

大学・学校間の連携、交流

《学びの場》

基町マップ制作（広島大×地域×市大）



平成26年度、広島大学建築学科の学生と地域住民が協働で基町高層アパートの屋上の魅力や可能性を紹介するマップを制作した。プロジェクトスタッフも制作に関わるなかで交流が生まれた。今後もこの



マップづくりの延長として広島大学と広島市立大学が連携し、特に建築や都市的な視点から基町住宅地区のあり方を考える。（*写真左：広大生とプロジェクトスタッフのミーティング風景、右：マップ制作時の様子）

基町高校との連携のあり方を検討



基町住宅地区の側にある基町高等学校には普通科の中に美術教育を行う創造表現コースがある。広島市立大学芸術学部には創造表現コース出身の学生も多数在籍している。今後は、広島市立大学と基町高等



学校が連携し基町住宅地区を舞台に学生がものづくりを学び、実践できる機会の創出を目指す。（*写真左：基町高等学校、右：基町高等学校放送部の生徒による基町プロジェクトの取材時の様子）

(4) 《学びの場》について

中 期（2020 年まで）：東京オリンピック開催

長期（2045年まで）：被爆100周年

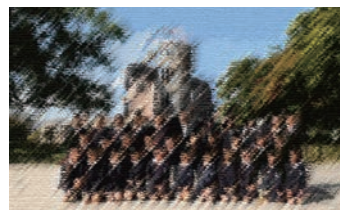
大学・学校間の連携、交流

国内外他都市の大学との交流連携



広島市立大学はドイツやアメリカ、中国、韓国を中心に 10 校以上の海外の大学と提携を結んでおり、交換留学などが行われている。留学生が広島歴史や復興を学び、学生同士の交流が生まれる場として基町住宅地区を活用する。（※写真：イメージ）

修学旅行生の呼び込み



広島には全国の学校から修学旅行生が訪れる。主にドームや資料館の見学がその目的だが、戦後復興の歴史を学ぶ場として基町住宅地区に修学旅行生を呼びこむ。戦後復興期や現在の広島を地域住民に語ってもらうなどのプログラムも実施する。（※写真：イメージ）



若者が集い、学ぶ基町

M トークの実施



本書 P6 で述べた内容を更に発展させ、より専門性の高いトークイベントの割合を増やし実施する。
（※写真：平成 26 年度の M トークの様子）

意見交換会の実施



本書 P6 で述べた内容と同様に、定期的に地域住民とプロジェクトスタッフの意見交換が出来る場を設ける。
（※写真：平成 26 年度の意見交換会の様子）

地域のイベントへの参加を通じた交流



本書 P6 で述べた内容と同様に、プロジェクトスタッフが地域のイベントにも参加し、地域住民のとの距離を縮める。（※写真：平成 26 年度の地区内の祝賀会参加時の様子）

- ・広島各大学が連携し、様々な実践的学びの拠点を形成する。恒常的に若者が出入りすることで、にぎわいが醸成される。
- ・広島戦後復興以降の営為を、体験的に伝える拠点整備。
- ・基町住宅地区の諸課題に取り組むことを通じ、学生を主な対象とする教育学習を行い、多様な若者が多く集まり交流する拠点を形成。

《学びの場》

地域の人材育成

(5) 《創造の場》について

短期（2015年～2017年）：広島市被爆70周年（2015年）

商店街の公共デザイン整備

《創造の場》

商店街に創造交流拠点の設置

ショッピングセンター屋上緑地の整備



ショッピングセンター屋上の緑地をイベントなどに活用できるよう整備する。現在この場所は利用されておらず、草が生い茂っている。市大の学生や地域住民で整備のデザインを考え、マルシェやカフェなどが実施できる場所を作る。（＊写真：ショッピングセンター屋上緑地）

ショッピングセンター床タイルのデザイン



ショッピングセンター中心部は大きな吹き抜けとなっており、ショッピングセンターを訪れた人が出会う場である。この場所の床はタイルが貼られているが、割れや剥がれが目立つ。これらのタイルをまちの中心部としてふさわしいデザインへ作り直す。（＊写真：ショッピングセンター中心部）

公衆トイレの整備プロジェクト



地区内にある公衆トイレは、一部男女共用であったり、汚れが目立つなどの問題がある。今後若者が基町住宅地区を訪れることを考えると公衆トイレの整備は必須である。市大の学生と地域住民で新しいトイレのデザインを考え整備する。（＊写真：地区内の公衆トイレ）

基町プロジェクトの展示会場として利用



商店街の空き店舗を、基町プロジェクトの活動を紹介する展示会場として利用する。本プロジェクトの活動で生まれた成果物の実物などを公開する。加えてプロジェクトスタッフと来場者の交流の場としても機能する。（＊写真：中央公民館での本プロジェクト展示の様子）

Mトークや意見交換会の会場として利用



商店街の空き店舗を、コミュニティスペースとして活用する。「Mトーク」や「意見交換会」を始め基町プロジェクトの各種イベントの会場として利用し、様々な人が集い基町について語り合えるスペースを作る。（＊写真：平成26年度に実施した映画上映会の様子）

基町アパート入居者による、作品制作・展示



平成27年度より開始される、地域再生計画による学生・若年世帯入居者に選ばれた方の制作スペースを商店街内に設ける。またその成果物を商店街の空き店舗やその周辺を使い展示を行う。基町住宅地区が《創造の場》となるための重要な一歩。（＊写真：イメージ）

(5) 《創造の場》について

中 期（2020年まで）：東京オリンピック開催

長期（2045年まで）：被爆100周年

アーティスト・イン・レジデンスの実施



国内外の文化芸術活動を行うクリエイターが基町住宅地区内に一定期間滞在し作品制作を行う（通称アーティスト・イン・レジデンス）。基町や広島文化や歴史を学び、その成果を作品制作と展示で公開する。また滞在中地域住民との交流イベントも実施する。（＊写真：イメージ）

作品展の開催



商店街の空き店舗等を利用し、質の高い作品展が行える場所の整備を行う。重量に耐えられるフラットな壁、照明レール、空調などを設置する。アーティスト・イン・レジデンスの作品展や、広島市立大学芸術学部学生作品などの展示を行う。（＊写真：イメージ）

交流イベントの開催



国内外のクリエイター、広島市立大学生、地域住民などが創造的な活動を通して交流できる各種イベントを実施。気軽に参加できるワークショップ形式のものから、クリエイターを目指す方向けの専門性の高いレクチャーなどを企画。（＊写真：イメージ）



若者が創造し、働く基町

- ・都心部における、新しく創造的な文化発信拠点を形成し、広島市内外の各施設等と連携する。
- ・創造的な文化芸術活動を支援する環境を整え、若者らが活動しやすい環境を整備する。
- ・商店街などを活用し、若者が仕事（特に創造的な文化芸術活動）を行うことで、収入を得ることができる環境をつくる。

(6) 《交流の場》について

短期（2015年～2017年）：広島市被爆70周年（2015年）

作品展示

基町写真展（基町歴史トーク、ワークショップ）



平成27年度夏に被爆70年に関連するイベントとして基町住宅地区内で「基町写真展（仮題）」を開催する。地域住民から提供頂く基町住宅地区の古い写真と、現在の基町住宅地区の写真を組み合わせた

展示を行う。また関連イベントとして地域住民による基町住宅地区の歴史に関するトークや広島市立大学生によるワークショップなどを開催する。（＊写真左：昭和40年代の基町住宅地区、写真右：現在の基町住宅地区）

基町をテーマにしたシンボリックな作品制作



基町住宅地区のシンボルとなる作品を制作し、多くの人の目に止まりやすい場所へ設置する。基町住宅地区の歴史なども踏まえながら、明るい未来を想像できる、前向きな作品を制作する。基町住宅地区を訪れる人

が記念撮影をするような作品を目指す。制作にあたっては、広島市立大学の芸術学部を中心に、基町高等学校生、基町小学生、地域住民なども関わることで完成出来る作品とする。（＊写真：イメージ）

《交流の場》

ネット上での基町紹介

Google ストリートビューによって、アパート屋上から見える景色を写真で公開



Google が提供する「ストリートビュー」は、実際にその場所を歩いているかのように画面上でまちを散策できるサービスである。この Google「ストリートビュー」で基町高層アパートの屋上を公開できる

よう撮影等を行う。Web 上でアパートの屋上を散策できると同時に、広島町の並みが360度楽しめる。（＊写真左：基町高層アパート屋上風景、右：基町高層アパート屋上から見える広島城）

(6) 《交流の場》について

中期（2020年まで）：東京オリンピック開催

長期（2045年まで）：被爆100周年

来訪者の呼び込み

復興の歴史を伝える基町の紹介



基町住宅地区は、広島の後復興の歴史を伝えるのにふさわしい場所である。国内外の来訪者が地域住民との交流を通して、広島復興について知ることの出来る取組を実施。
（*写真：昭和40年代の基町高層アパート建設時の様子）

若者を中心とする創造的文化芸術活動の発信



若者が創造的な文化芸術活動を行っている様子を来訪者や地域住民に常に公開する。制作の過程を公開することで、クリエイターと来訪者や地域住民との交流を促進すると同時に、互いの創造性がより豊かに広がる機会を作る。（*写真：イメージ）



若者が住む・滞在する基町

外来駐車場の整備



基町住宅地区内にある外来者駐車場は、老朽化が進み来訪者が気軽に利用できる雰囲気ではない。今後基町住宅地区のにぎわいを創出するための基盤として、明るく、開放的な駐車場となるよう整備を行う。（*写真：ショッピングセンター内の駐車場）

・学生・若年世帯にも魅力のあるアパートの運営。地域行事や基町プロジェクトへの参加を通して地域住民として基町住宅地区の活性化に関わる仕組みづくり。

・ホテルの運営：コルビュジェのユニテ・ダ・ビタシオン（マルセイユ）の事例でアパートのホテル活用がある。

《交流の場》

周辺環境の整備

(7) 情報発信について

情報発信の重要性

平成 26 年度、モデル事業を行うことを通じて、情報発信の重要性を実感した。今後本格的に事業を開始するにあたり、地域住民の方はもちろんのこと、他大学や他施設などとの協力体制が必要不可欠となる。良い協力関係を築くためには日頃から基町プロジェクトの活動を積極的に発信し認知度を高めていくことが重要である。

情報発信方法の選択

基町住宅地区は高齢化率が 40% を超えるため、インターネットなどを用いた情報発信は効果が弱い。そのため、平成 26 年 8 月より定期的に「もともち TIMES」という新聞を発行し、全世帯へ配布する取組を行った。これは非常に高い効果を発揮し、配布後 M98 を訪れる地域住民が多かった。

その一方で基町住宅地区外や国内外に向けてはインターネットを積極的に活用する必要がある。特に若い人に向けて情報を発信するためには、「facebook」「twitter」などが有効である。

このように「地元の方向け」と「基町住宅地区外・国内外向け」の広報は異なる方法で行う必要がある。

基町住宅地区 向け

もともち TIMES



基町プロジェクトの活動や、基町住宅地区のニュースなどを紹介する新聞。2,3 ヶ月に一回程度発行し、基町住宅地区の全世帯のポストに配布する。原則記事は日本語であるが、一面の記事については中国語訳も併記している。

連合自治会会議での報告

基町住宅地区は自治会への加入率がほぼ 100% に達しており、自治会長を中心に情報が伝達する仕組みが整っている。そのため、基町プロジェクトの進捗状況や、イベント参加者の募集など重要な案件に関しては、自治会会議で報告することが重要である。

基町住宅地区外・国内外 向け

もともち TIMES

地元の方向けに発行している新聞であるが、配布対象を市内各所や、他県の文化芸術活動を行っている施設等へも徐々に広げていく。

Facebook・twitter



「Facebook」や「twitter」など SNS を活用し、定期的に基町プロジェクトの活動を広報する。SNS では情報が共有されていくため広範囲に発信できる。メッセージのやりとりなども気軽に行えるため繋がりが生まれやすい。

基町プロジェクトの活動展示



基町プロジェクトの活動を紹介する展示を定期的に行う。上の写真は平成 26 年夏に行った活動報告を中区役所ロビーで展示した様子である。活動の成果物を実際に見てもらうことで、深い活動内容の理解と関心の促進を目指す。

各種メディア・広報物の活用

イベントなどの際には、新聞、テレビなどのマスコミへ情報提供を行う。行政発行の市内の観光マップや広報誌などへ基町住宅地区に関する情報の掲載依頼する。その他、取材依頼は原則引き受け基町プロジェクトの取組の広範囲への周知を目指す。

情報

基町プロジェクト

Facebook：https://www.facebook.com/motomachiproject
twitter：https://twitter.com/motomachi_prj

M98（基町プロジェクト活動拠点）

〒730-0011
広島市中区基町 16 番 17-2-103(広島基町郵便局 2 つ隣)

広島市立大学

HP：http://www.hiroshima-cu.ac.jp/
〒731-3194
広島市安佐南区大塚東三丁目 4 番 1 号
TEL：082-830-1764（社会連携センター）

広島市中区役所

HP：http://www.city.hiroshima.lg.jp/naka/
〒730-8587
広島市中区国泰寺町一丁目 4 番 21 号
TEL：082-504-2546（市民部地域起こし推進課）

基町住宅地区活性化計画

http://www.city.hiroshima.lg.jp/toshiseibi/
jyuutaku/motomachi.pdf

被爆 70 周年記念 まちづくり先導事業

http://www.city.hiroshima.lg.jp/kikaku/kikaku/70th.pdf
（基町プロジェクトは P39 に掲載）

基町プロジェクトに関するお問い合わせ

広島市立大学 社会連携センター
TEL：082-830-1764
広島市中区役所 市民部 地域起こし推進課
TEL：082-504-2546

発行

発行日：平成 27 年 3 月

制 作：基町プロジェクト（広島市立大学・広島市中区役所）

問い合わせ：広島市立大学 社会連携センター

TEL：082-830-1764

広島市中区役所 市民部 地域起こし推進課

TEL：082-504-2546

無断転載の禁止

本書（本文、図表、イラストなど）を基町プロジェクト及び著作権者の承諾なしに
無断で転載（翻訳、複写、データベースへの入力、インターネットでの掲載など）
することを禁じます。